

授業モデル

中学校
第2学年

国語科

単元名（教材名）

図表と文章とを正しく組み合わせる活動を通して、図表の効果を考えよう
（光村図書『中学校国語 2』「クマゼミ増加の原因を探る」）

本時の目標

文章と図表を、根拠をもって結び付け、図表の効果について考えることができる。

[思考力、判断力、表現力等 C「読むこと」(1)ウ]


読解力向上プラン Ver. 2における指導のポイント

⑧言葉や文と、絵や図とを対応させて考えられるようにする。(イメージ同定)

⑩「～を…という」というような定義文を全員で確認するようにし、用語の定義を「とは」を使って説明させる。

(具体例同定)

⑯既存の知識と習得した知識を効果的に活用して論理的に説明させる。(推論)

	学習活動	指導上の工夫
導入	○全体の構成を振り返る。 ○本時の目標を確認する。	・「仮説」「検証」という言葉を、「～とは、…です。」という言い方で説明させる。
展開	○三つの仮説の内容をノートに整理する。 ☆図表と文章とを根拠をもって組み合わせる。	・「グラフから分かること」「グラフと本文の対応しているところ」をノートにまとめさせる。 ・文と図表を、言葉や数値に印を付けたり線でつないだりして関連付けながら読ませる。
まとめ	○図表の効果について考え、説明する。 PICK UP 	・これまで学んできた「意見」と「根拠」の関係や、意見の説得力を増すための方法について想起しながら考えさせる。 ・考えたことを、ペアで説明し合わせる。

☆対話例☆（図表の効果について考え、説明する場面）

PICK UP 

T: レポートを書く学習をしたときに、図を用いて書きましたね。図を用いることでどんなよさがあったかな？

S: 図を入れることで、視覚的に情報を伝えることができました。

T: では、視覚的に情報を伝える効果を、今回出てきている図表を一つ例として挙げ、説明してください。

S: 抜け殻調査について、文章では「大阪府内」と大まかに説明されている具体的な場所が、図1のグラフの中に書かれています。こうすることで文章中の言葉を最小限にでき、文章で羅列するよりも、パッと見て分かりやすいと思いました。

◇実践のポイント◇

言葉や図に印を付けたり線でつないだりして図表と文章との結び付きを確かめながら読み、図表があることでどのような効果が生まれているかについて考えました。

既習の言葉(本単元では、「仮説」「検証」)について、「～とは、…である。」という言い方で生徒自身に説明させてみるなどし、それらの定義を生徒が正しく理解できているかを確かめてから授業に入ることで、学習内容の理解につながりました。学年が上がるごとに、教科で用いる言葉は抽象度を増していきます。用語の理解には、教科書に掲載されている「学習用語一覧」などの資料を活用することも有効です。

まとめにおいては、他の単元で学んだことを思い出したり、教科書を遡って関連のある部分を読み返したりするように声掛けをし、既存の知識と結び付けて自分の考えをまとめさせるようにしました。また、考えたことを、生徒自身が書いたり話したりして表現するような機会をもつことも大切です。

◇活用できる単元例や教材例◇

「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ」光村図書『中学国語 1』